

熱 建 設 第 415 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

熱 海 市 長 齊 藤



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号による表記「今後の道路行政についての意見・提案の提出について」の依頼については、別紙のとおり回答します。

[担 当]	熱海市建設部建設課都市計画室
[T E L]	0557-86-6413（担当）立見
[F A X]	0557-86-6416
[E-mail]	kensetsu@city.atami.shizuoka.jp

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

静岡県熱海市

〔要 望〕

□ 市街地への通過車両の削減、生活道路と幹線道路の分離

熱海市は伊豆半島の東の玄関口に位置し、伊豆半島を訪れる多くの観光交流客^{*1}が、本市の幹線道路である国道 135 号に集中します。その多くは伊豆各地へ向かう通過車両であり、これにより国道 135 号では慢性的な渋滞が発生し、その影響は生活道路へも及んでいます。国道 135 号は広域幹線道路としてだけでなく生活道路として機能している路線であり、慢性的な渋滞は市内経済活動の妨げとなり、生活道路に流入した車両による交通事故^{*2}の発生が懸念されます。

このことから、市街地の通過車両の削減及び生活道路と幹線道路の分離を進めるため、広域的な道路ネットワークの整備及びバイパス機能の強化について要望いたします。 ^{*1} 伊豆地域の観光交流客数 41,049,958 人(H19 年度) ^{*2} 事故起因者の居住地 市外・県外 176 件 54.7%(H19 年度)

□ 圏域をつなぐ道路整備の推進

熱海市は、神奈川県箱根町とともに伊豆箱根の主要な温泉観光地として首都圏の奥座敷として発展してきました。現在、国土交通省を中心に取り組んでいるビジット・ジャパンキャンペーンによる外国人観光客の誘客や静岡空港の開港・羽田空港の再拡張により、このエリアを訪れる観光交流客を増加させる要因が整いつつあります。しかし、熱海・箱根から富士五湖周辺を含めた広域観光の視点からすると、静岡・神奈川・山梨との県境、地方整備局の管轄境にあたることから、一体的な整備を進めるうえでの障害となっていたように見受けられます。

このことから、このエリアに多くの観光交流客を呼び込むとともに、このエリアを周遊する観光交流客の利便性の確保・快適な交通環境の整備のため、圏域をつなぐ道路整備の推進について要望いたします。

□ 道路・橋梁の長寿命化の推進

熱海市は、伊豆半島を訪れる多くの通過車両があるだけでなく、市内に多くの観光交流客^{*3}を迎え入れています。多くの車両が通過する道路・橋梁の整備、市民だけでなく多くの観光交流客が歩く道路環境の安全性の確保・バリアフリー化の推進が求められています。そのため、道路維持・橋梁維持、長寿命化の推進はこれからの大きな課題となり、財政的な負担も大きくなることが予想されます。

このことから、道路・橋梁の長寿命化の推進について特段の財政的支援がなされることを要望いたします。 ^{*3} 熱海市の観光交流客数 6,570,444 人(H19 年度)

□ 地域の実情に合わせた道路基準の緩和

熱海市は、箱根山系から相模湾に開けた斜面に市街地を形成しています。狭隘な市街地には、ホテル・旅館の商業施設や中・高層の集合住宅が林立し、市内の道路は幅員が狭く、かつ急勾配の形状で道路通行に支障をきたす箇所も多くあります。これらの道路環境を改善することは市民の住環境を向上させるとともに観光交流客の増加につながるものと期待されます。しかしながら、その整備には大きな財政的な負担が伴うものです。

このことから、地域の実情に合った道路基準の緩和を図り、また特段の財政的な支援がなされることを要望いたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

静岡県熱海市

○現状

- 熱海市は、神奈川県箱根町とともに関東の奥座敷として発展し、ホテル・旅館や企業の保養所が集積した国内有数の温泉観光地として、数多くの観光交流客を迎え入れてきました。
- 平成に入ってから、多くのホテル・旅館、保養所の跡地に高層の集合住宅が建設され、リタイアメント層を中心に二地域居住・移住される新しい住民が流入し、市民・移住してきた住民・観光交流客が同居する都市形態となっています。
- 熱海市を訪れる観光交流客の約 80%が関東圏(うち神奈川・東京・埼玉からが 90%)からであり、そのうち約 6～7 割が車を利用して訪れていると推定されています。
- 関東圏からの観光交流客のほとんどが、国道 135 号を利用して熱海を訪れており、また、伊豆各地を目的地とする車両も熱海市内を通過しています。このことから、週末・夏季・年末年始を中心に全線にわたり慢性的な渋滞が発生しています。西湘バイパス石橋 IC 延伸により一定の渋滞緩和の効果があつたが根本的な改善にいたっていません。
- また、国道 135 号には雨量規制区間が存在し、災害発生時には市民だけでなく、多くの観光交流客が孤立する可能性があります。
- 今後、富士山静岡空港の開港、第二東名の完成等により、静岡県内や愛知県など西側からの観光交流客の増加が期待されています。

○課題

- 観光交流客の熱海へのアクセスを容易にするための、広域道路ネットワークの整備。
- 市内通過車両を削減させるための広域道路ネットワークの整備とバイパス路線・機能の整備。
- 熱海・箱根を中心とした観光圏域内の交通環境の整備。
- 市民や観光交流客が共存する道路空間の安全対策・バリアフリー化、景観整備の推進。
- 災害時や救急医療のための、緊急輸送路の整備推進。

〔熱海市総合計画 将来都市像〕

豊かな自然を守りながら文化を大切に作る心を基本に、ホスピタリティ(もてなしの心)をもって、訪れる世界の人々に「ときめきと癒し」を提供できる、花と光に彩られた「おしゃれな保養地」としての姿。そして、恵まれた自然と立地条件を活用して経済社会のニーズの拡大が見込まれる分野を中心とした産業を時に応じて積極的に取り入れ、市民が「愛着と誇り」を持てる「活動的な文化都市」としての姿を目指す。

「しあわせ もてなし おしゃれな 熱海」

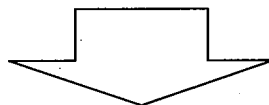
〔熱海市観光基本計画 将来都市像〕

長期滞在型の世界の保養地

- 心と体を回復させる 現代の湯治場「熱海」 -

熱海観光の原点である「温泉」にもう一度光をあてながら、時代と社会のニーズの変化に合わせ、長期滞在が楽しめ、何度来ても新しい発見と癒しを体験できる。市民そして観光客にとって満足度の高い心と体を回復させる「現代の湯治場」という世界に開かれた保養地づくりを目指す。

- 自由時間の増加やニューツーリズムの浸透を背景に、「1泊2日の観光地」から「長期滞在型の観光地」への移行。
- 日本人の人口減少と外国人旅行者の増加、空港などの交通インフラの整備を背景に、「世界に開かれた観光地」の整備。
- 現代の旅行者ニーズとなる心と体の癒しを提供できる「やすらぎのある保養地」づくりを推進。



国際的な観光地にふさわしい「安全」で「快適」、「やすらぎ」の感じられる 道路空間・歩行空間 の整備

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

静岡県熱海市

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
広域道路ネットワークの整備	- 圏央道(首都圏中央連絡道路)・さがみ縦貫道の早期完成 - 伊豆縦貫道、東駿河湾環状道路の早期完成 - 西湘バイパス延伸、伊豆湘南道路の整備促進 - 市道中部横断道路線の整備促進	- 神奈川 相模原、東京 八王子・多摩、埼玉 所沢・川越エリアからの旅行時間短縮による誘客増 - 伊豆エリアを目的とする通過車両の減少による交通渋滞及び交通事故の減少 - 国道 135 号の慢性的な渋滞緩和による余暇活動による渋滞損失時間の削減と観光地での経済効果の増加 - 国道 135 号のバイパス機能を果たす道路の整備により渋滞発生により妨げとなる市内経済活動が円滑化	
圏域をつなぐ道路整備	(主)熱海箱根峠線、国道 1 号、国道 138 号など熱海・箱根・富士五湖周辺をつなぐ道路整備	観光路線としてのビューポイント整備や周遊性の向上により、このエリアを訪れる観光交流客の増加	
安全対策、バリアフリー化	- 道路・街路のバリアフリー化、交通安全施設の整備促進 - 道路・橋梁の維持、長寿命化の強化	- 急傾斜で狭隘な地形に併せて、観光地という特性から地理不案内な県外車両の走行により発生する交通事故の減少 - 中心市街地における駅・公共施設及び病院、商店街間の歩行空間のバリアフリー化により、市民・観光交流客に安心安全で魅力ある街並みを整備 - 道路・橋梁の維持、長寿命化の推進により安心安全の道路空間を創出	
緊急輸送路の確保	- 国道 135 号の安全性の向上と伊豆湘南道路の整備促進 - 東駿河湾環状道路の早期完成と(主)熱海函南線へのアクセス路の整備 (主)熱海大仁線の整備促進	- 国道 135 号雨量規制区間の解消とバイパス機能をもつ伊豆湘南道路の整備促進により主に首都圏方面への緊急輸送路を確保 - 静岡県東部の高次医療施設(静岡がんセンター:長泉町、順天堂病院:伊豆の国市)への移動時間の短縮 - 南熱海地区から上記高次医療施設等への移動時間の短縮	